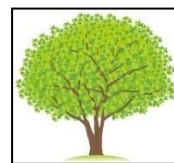


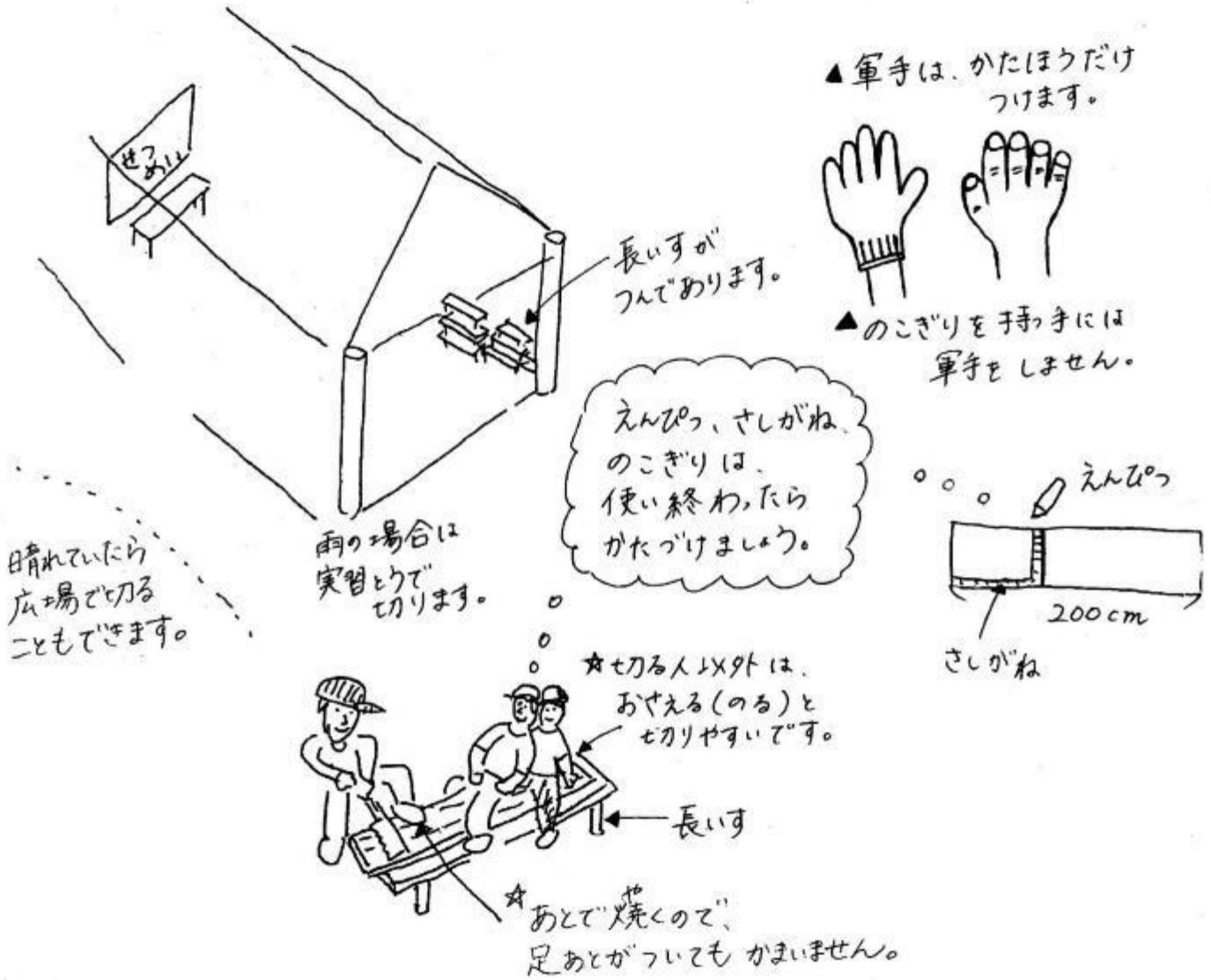
杉板切り・焼杉



活動場所	実習棟、交流ひろば	自然の家にあるもの	薪、カラーテックス、杉板、カラー紐、ヒートン（以上、有料） 作業台、のこぎり、ドラム缶、金網、火ばさみ、金ブラシ、さしがね、えんぴつ
所要時間	1～1.5時間 2～3時間（活動中に杉板大を切る場合）	利用者で用意するもの	新聞、ボロ布、軍手（ゴムの滑り止めがないもの）、マスク、飾り付ける自然物やポスターカラー、
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン（綿素材のもの）、マスク 軍手（ゴムの滑り止めのないもの）

間伐材である杉板を使った活動です。森を守るためには、間伐という作業が重要であること、また間伐した後の木材の利用方法について学習しておくこと、さらに深い学びとなります。この活動は天候や季節を問わず行うことができます。焼いて磨くだけでなく、長い杉板をノコギリで切るところから始めたり、自分たちで火を付けて焼いたりすることもできます。できあがった作品は、写真や絵を貼り付けたり、木の実や葉を貼り付けたりして、葛川の思い出の品とすることができます。

杉板切り



とくに大切なこと

- ① 長いすは、2人で運ぶようにしましょう。
- ② 班のみんなで板を押さえてあげると、切る人が切りやすいです。
- ③ のこぎりは引く時によく切れます。やってみましょう。
- ④ のこぎりののはの方に立ったり、すわったりしてはいけません。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・杉板やのこぎりの特徴について知り、安全で適切な扱い方について身につけることができる	図画工作	4年「使ってみよう ざいりょうと用具」
・測定の意味、普遍単位、直線の意味を理解することに活用できる。 ・分数の意味やしきみ、系列や大小について理解し、活用できる。 ・（何百）÷（1位数）の計算を使い、班員の分の板を分けることができる。	算数	2年「長さ」 3年「分数」 4年「1けたでわるわり算の筆算」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・板はおよそ200cmあり、何cmに切るか事前に連絡すること。

イ) 活動中

- ・始めに行う説明の内容
 1. のこぎりの使い方(班に1つ)
 2. 軍手の付け方(のこぎりを持つ手には付けない)
 3. 線のひき方(自然の家ではさしがねがあり、学習として使えるが、
子どもの状況に応じて、切るサイズに合わせた型紙を作っても構わない)
- ・長椅子を移動させるときは、必ず2人で持つように指導する。また、他の班に当たらないよう、スペースを空けるように指導すること。
- ・班で協力して板を切るように指導する。

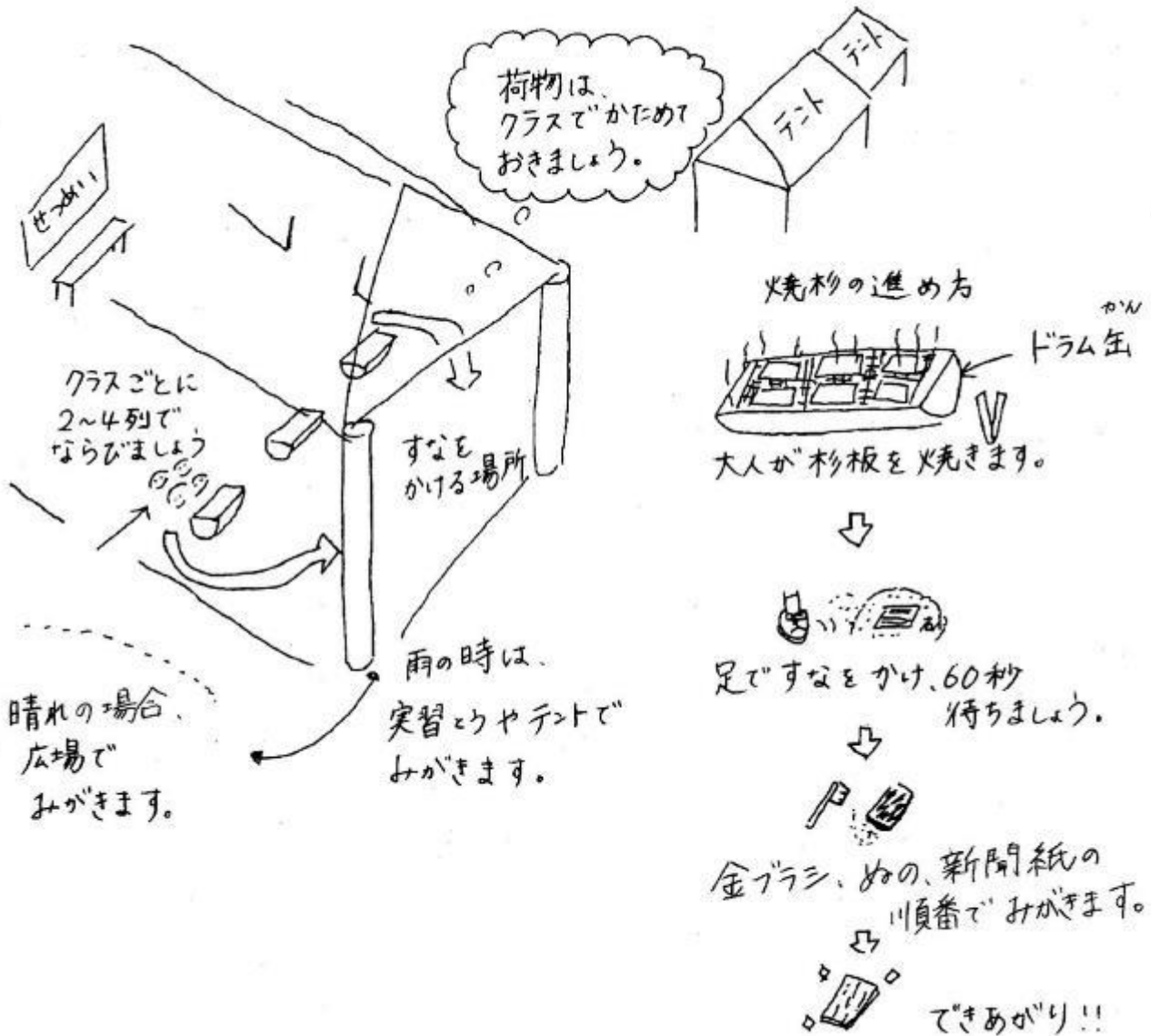
ウ) 活動後

- ・道具や長椅子は元通りに戻す。
- ・焼く作業を別日に行う場合、切った杉板にえんぴつで名前を書いておくと、焼く作業の時に配布がスムーズに進む。

3. 安全対策について

--

焼き杉



とくに大切なこと

- ① 焼き上がる前の杉板のようすと焼き上がった後の杉板のようすをくらべてみましょう。
- ② すなは足でかけましょう。60秒間待ちます。
- ③ 杉板をみがくときは、かならずマスクをつけ、両手に軍手をしましょう。
- ④ 使い終わった道具はすぐにかたづけに行きましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・いろいろな道具と動作をしている手の動きについて気付き、道具と手の役割について考え、表現活動に生かすことができる。	図画工作	4年「ぞうけいのもり 見て、感じて、考える」
・間伐材を利用し、作品を作ることで間伐材について興味を持ち、そこから森林の役割について探究することができる	総合的な学習	「環境」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ 焼杉をした後、その板をどのように活用するか考えておくこと。
- ・ 長袖、長ズボンが望ましい。ビニール・ナイロン素材の服は火の粉で穴があく恐れがある。綿素材の服を着用する。
- ・ 軍手、マスク、新聞紙、布は必ず用意する。
- ・ 軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。

イ) 活動中

- ・ 始めに行う説明の内容
 1. 杉板を焼いてもらう→砂をかけて冷ます→磨く（金ブラシ→布→新聞紙）
 2. 道具の使い方、磨くポイント（木目に沿って磨く、磨きすぎない等）
- ・ 焼く作業は指導者、所員で行う（子ども45人程度に対して、焼く指導者が1人必要）。
- ・ 焼きあがったら火ばさみで、焼けた板を砂かけ場に移動させる。砂をかける際は必ず足でかけるよう指導すること（手でかけるとやけどの恐れがある）。
- ・ 必ず軍手、マスクを着用するよう指導する。
- ・ 活動中、ドラム缶のかまには近づきすぎないように、声掛けを行うこと。

ウ) 活動後

- ・ 使った道具はもとの場所に戻すように指導する（特に金ブラシは、ケースにきれいに直すよう指導すること）。
- ・ 持ち帰る際は、焼杉は新聞紙で包みマジックで名前を書いておくと再度配布する際便利である。

3. 安全対策について

--